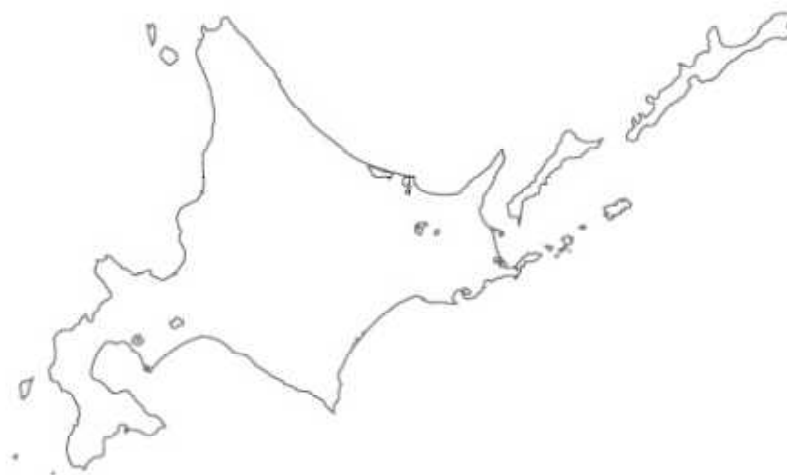


通常の学級における特別支援教育の視点を生かした
「実践事例集」

～一人一人を大切にした学級づくりと、どの子にも分かりやすい授業の充実を目指して～



北海道教育委員会

はじめに

北海道教育委員会では、道内全ての教員が、通常の学級における発達障がいのある子どもへの指導や支援に関する基礎的な知識や技能を習得することができるよう、平成26年度と平成27年度、「発達障がい支援モデル事業」において、森町、美唄市、湧別町の計3地域8校をモデル校として、プール学院大学の松久眞実准教授の専門的な見地からの御助言を踏まえ「校内研修プログラム」（以下、本プログラムという）の作成に取り組みました。

その後、本プログラムの趣旨や活用の仕方などについては平成27年度に各管内で実施した「特別支援教育充実セミナー」において、説明や演習を行いました。

また、モデル校はもとより、協力校及び協力地域等から提供していただいた本プログラムの効果的な活用事例を平成27年12月に「校内研修プログラム活用事例集」としてまとめ、道内全ての学校にお知らせし北海道立特別支援教育センターのWebページに掲載したところです。

さらに、北海道教育委員会としましては、「校内研修プログラム」の活用の成果を生かしたモデル校や協力校などの顕著な実践事例を「通常の学級における特別支援教育の視点を生かした実践事例集」（以下、本事例集という）としてまとめ、道内全ての学校に配布するとともに、北海道立特別支援教育センターのWebページに掲載することとしました。

本事例集には、通常の学級における特別支援教育の視点を生かした取組を校種別に、

- ・一人一人のよさが認められる工夫などの学級づくり
- ・視覚的な支援などの授業づくり
- ・個別の指導計画を生かした支援
- ・教師の好意に満ちた言葉かけ

などについて、多くの実践事例を掲載したところです。

北海道教育委員会としては、発達障がいのある子ども一人一人が大切にされ、生き生きと力を発揮できる環境づくりがより一層推進されるよう、道内全ての学校において、学級づくりや授業づくりの充実に向け、本事例集を参考としていただくことを期待するとともに、事例を提供してくださったモデル校をはじめ、該当の各学校に対し、厚くお礼申し上げます。

平成28年3月

北海道教育庁学校教育局特別支援教育課長

小 原 直 哉

通常の学級における特別支援教育の視点を生かした「実践事例集」 目次

- ◇ はじめに
- ◇ 実践事例集の見方

■ 実践事例

○ 幼稚園	幼 1
・学級づくり	
・保育の展開	
・個別の指導計画を生かした支援	
・好意に満ちた教師の言葉がけ	
○ 小学校	小 7
・学級づくり	
・授業づくり	
・個別の指導計画を生かした支援	
・好意に満ちた教師の言葉がけ	
○ 中学校	中 2 2
・学級づくり	
・授業づくり	
・個別の指導計画を生かした支援	
・好意に満ちた教師の言葉がけ	
○ 高等学校	高 2 9
・ホームルーム活動	
・授業づくり	
・好意に満ちた教師の言葉がけ	
○ その他	3 5

※ 本事例集では、幼稚園・小学校は「子ども」、中学校・高等学校は「生徒」という言葉で統一しています。

実践事例集の見方

授業中の発言のルール工夫（第6学年）

【実態】

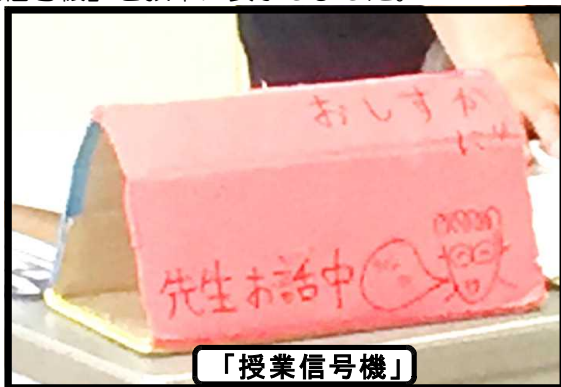
- 授業中に、いつでも自由に話をしてしまう子どもがいました。

【背景】

- 前学年で、「話す場面」「聞く場面」の区別のない授業を経験してきたことが影響しているようでした。

【指導や支援の工夫】

- 「静かに聞きます、先生お話中」を赤、「手を挙げて発言」を黄、「自由に話してよい」を青など、「授業信号機」を教卓に表示しました。



「授業信号機」

【その時点の状況】

- 授業に関係ない発言や不規則な発言がなくなりました。

【実態】とは

本事例に取り組むきっかけとなった個々の実態、又は全体の実態のことをさしています。

【背景】とは

実態の要因として考えられる背景のことをさしています。

【指導や支援の工夫】とは

実際に、どのような指導や支援を工夫されたか、説明文、写真や図などを掲載しています。

【その時点の状況】とは

その時点で、当該の子ども、又は子どもたちが、どう変わったのかを記載しています。

※ 道内の教員の皆様へ

本事例集は、実態や背景を踏まえ、工夫した指導や支援を分かりやすく写真等で示し、その時点での状況を紹介したものです。したがって、実態や背景が異なるので、このとおり実践したとしても、同様の効果があるとは限りません。

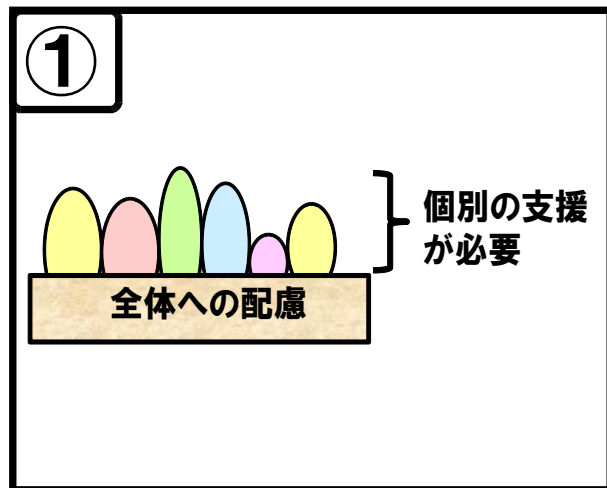
皆様には、本事例集を参考に、子どもの実態や背景、発達の段階、学校や学級の規模等を踏まえ、御活用ください。

通常の学級における特別支援教育の視点を生かした実践の考え方

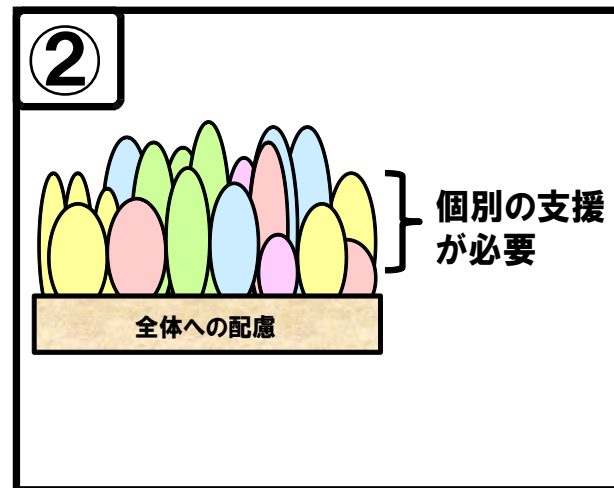
通常の学級においては、教師が個別に支援が必要な子どもにかかわりすぎてしまい、「全体への配慮」が十分でなくなると、全体が崩れてしまい、個別の支援が必要な子どもが増えてみえてきます。

逆に、「全体への配慮」が行き届いている場合、支援が必要だったはずの子どもが「全体への配慮」の中で、個別の支援がなくても、安心して学習や生活をし、力を発揮することができる場合があります。

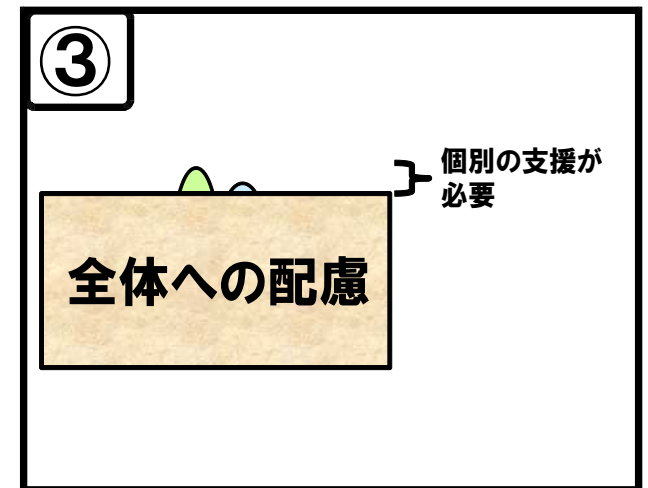
通常の学級における「特別支援教育の視点を生かす」とは、このように、「個別の支援ありき」ではなく、「全体への配慮」と「個別の支援」の両面で考えていくことが大切です。



①「全体への配慮」をしつつ、「個別の支援」が必要な子どもがいる学級です。



②「全体への配慮」が十分でないと、「個別の支援」が必要な子どもが増えてみえてきます。



③「全体への配慮」が十分だと、「個別の支援」が必要だったはずの子どもが「全体の配慮」の中で「個別の支援」がなくても力を発揮することができます。

※ 「全体への配慮」とは、「視覚的な支援、スケジュールの提示、短く分かりやすい指示、好意に満ちた言葉かけ、秩序のある一人一人が大切にされる温かい学級づくり」等のことで、それは支援が必要な子どもだけでなく、全ての子どもに必要な配慮です。

幼稚園

- 学級づくり
- 保育の展開
- 個別の指導計画を生かした支援
- 好意に満ちた教師の言葉かけ

幼稚園～学級づくり

言葉の指導の工夫（年長）

【実態】

- 友達に対して、きつい言葉をかけてしまう子どもがいました。

【背景】

- 相手の状況や気持ちに気付いていないことや、言葉の意味がよく分からずに使っていることが考えられました。

【指導や支援の工夫】

- 「イガイガ言葉はごみ箱へ」「ふわふわ言葉の木」の掲示をつくり、出てきた言葉をクラスで知らせ合い、貼ることにしました。



【その時点の状況】

- 「これってイガイガ言葉かな？」「ふわふわ言葉にはこんな言葉もあるよ！」と話す言葉を意識したり、「イガイガ言葉」を注意し合うようになりました。

静寂の時間の工夫（年長）

【実態】

- 教師の話の途中で口をはさんでしまったり、最後まで聞くことができない子どもがいました。

【背景】

- 思ったことをその場ですぐ話すことが習慣になっていました。

【指導や支援の工夫】

- サインカードを見せながら話し、聞く時と話す時の区別がつきやすいようにしました。



【その時点の状況】

- 言葉で伝えなくても、静かに聞く時間をつくることができました。

幼稚園～保育の展開

自分の気持ちのコントロールの支援（全園）

【実態】

○ 友達とトラブルになると、いつまでも落ち込む子どもがいました。

【背景】

○ 気持ちのコントロールが難しい面がみられました。

【指導や支援の工夫】

○ 「足を踏まれて痛い」という気持ちがずっと続き、その後も気持ちの切り替えができなかったため、その気持ちを受け止め、痛む箇所を確認し、傷がないことで落ち着かせました。



① まず、「痛かったんだね」と気持ちを受け止める。



② 痛む所を確認し、傷がないことで落ち着かせる。

【その時点の状況】

○ 少しずつではありますが、教師がつかなくても、自分で気持ちをコントロールできるようになってきました。

相手の気持ちを考える支援（全園）

【実態】

○ 友達と遊ぶ時にトラブルがよくありました。

【背景】

○ お互いに、相手の気持ちを想像できない面がみられました。

【指導や支援の工夫】

○ 友達が「入れて」と言ったら「いいよ」と言うと、友達は、いい気持ちがすることを簡単な絵を描いて説明しました。



簡単な絵を描いて、その時の友達の気持ちを説明する。

【その時点の状況】

○ 次に友達と遊ぶ時に、生かされていました。

幼稚園～保育の展開

視覚的な支援の工夫（全園）

【実態】

○ 私語が多く、騒がしくなりやすい子どもがいました。

【背景】

○ 教室の中の目につくものに興味が向き、集中して話を聞くことが難しいことが考えられました。

【指導や支援の工夫】

○ その時間に必要のない物については、カーテンで見えなくなるようにしました。



必要ない物はカーテンで隠す

【その時点の状況】

○ 落ち着いて活動に取り組めるようになりました。

視覚的な支援の工夫（全園）

【実態】

○ 廊下を走ってしまい、友達とよくぶつかる子どもがいました。

【背景】

○ 「はしらない」という注意の言葉が、心に響いていませんでした。

【指導や支援の工夫】

○ 「はしらない」という注意の言葉ではなく、「じょうずにあるこうね」という好意に満ちた言葉の標示に変えました。



注意の言葉から



好意に満ちた言葉へ

【その時点の状況】

○ 標示を見て、走るのをやめる子どもが増えました。

幼稚園～保育の展開

視覚的な支援の工夫（全園）

【実態】

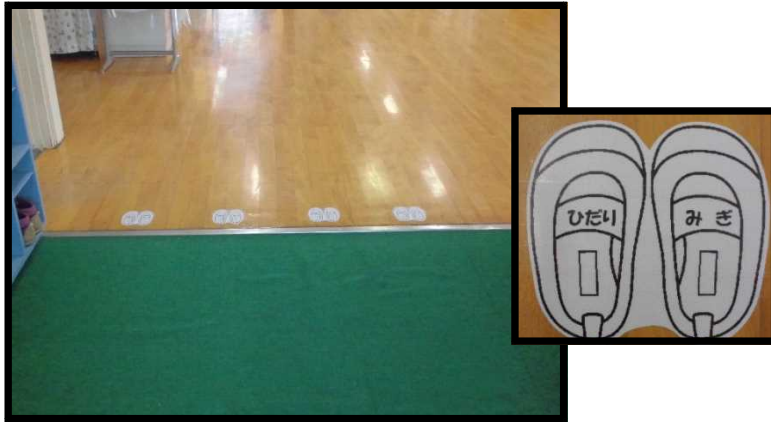
- 右足と左足の靴を逆に履いてしまう子どもがいました。

【背景】

- 視覚に訴える標示がないと分からなかったことが考えられました。

【指導や支援の工夫】

- 上靴を履く場所に、右足用と左足用の靴のかたちを標示し、そこに靴をおいて履くように促しました。



【その時点の状況】

- 右足と左足の上靴を間違えて履くことがなくなってきました。

視覚的な支援の工夫（年長）

【実態】

- 「次に何するのか」をととても気にする子どもがいました。

【背景】

- 見通しがないと不安になっていることが考えられました。

【指導や支援の工夫】

- ホワイトボードに、常に、1日のスケジュールを書いて掲示しておき、折に触れて、次の活動を予告しました。



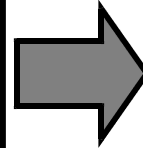
【その時点の状況】

- 1日のスケジュールを見て、安心して活動に取り組めるようになってきました。

幼稚園～個別の指導計画を生かした支援

個別の指導計画（A児）

子どものよさ（○） 学習や生活上、困難なこと（△）		長期目標 （１年後）	
○ 友達を誘って、一緒に遊ぶことができる。 ○ ものづくりは、集中して取り組むことができる。 △ 自分の思ったことを相手に伝えることが難しい。 △ 指示に従って、速やかに行動することができない。 △ 着席や起立時の正しい姿勢を維持できない。 △ 集中して話を聞いていられず、周りに影響を及ぼす。		・園の生活のルールを守り、速やかに行動に移そうとする。 ・得意なもののづくりを生かして、友達に思いを伝えることができる。 ・環境に応じた態度で話を聞くことができる。	
短期目標 （１～３か月後）	場 面	指導や支援の 内容、方法	評 価
・１週間に１回は、友達に思いを伝えることができる。	・保育中	・ものづくりを思いきり取り組んだあと、その作ったものを説明する機会を設定する。	・課題に根気よく片付けようとする姿勢が見られはじめている。
・身支度や片付けなどを１日１回、自分でできる。	・生活全般	・促しや指示を少なくし、全体のペースを優先して活動する。	・周りの様子を見て、気付けるようになってきた。
・家庭で１日１回はほめていただく。	・家庭との連携	・幼稚園でがんばった事実を伝え、家庭でも認めてもらう。また、保護者の悩みも聞く。	・毎日ではないが家庭でも認めるようになった。



よさを生かした支援

【指導や支援の工夫】

Aくんがつくった粘土の作品の素晴らしさを生かし、Aくんの思いを伝える機会を設定しました。

- ① みんなで、Aくんの作品のよいところを発表しました。
- ② つくった粘土の作品（じどうしゃ）について、先生から
 - ・作品名
 - ・どうして、その作品をつくったのか
 - ・どこを工夫したのか
 などの質問をし、Aくんに答えてもらいました。
- ③ みんなは、Aくんに称賛の言葉をかけました。

【その時点の状況】

○ Aくんは先生からの質問に、はきはきと答え、自分の思いをみんなに伝えることができました。また、みんなから称賛の声をかけられ、嬉しそうにしていました。

幼稚園～好ましくない言葉がけを好意に満ちた言葉がけに変える例

	好ましくない教師の言葉がけ	好意に満ちた教師の言葉がけ
1	「横入りしないでって言ったでしょ。」	「友だちの後ろに並ぶと順番が来るよ。」
2	「静かにしなさい！ほら！」	「Bのグループは静かに待ってるね。」
3	「いいから早くやりなさい。」	「少し急ごうか。」 (時計の針を指さして)「ここまでにできるようにがんばろう。」
4	「ちゃんとやらないといけません。」	「みんなのお手本になってあげてね。」
5	「また、わすれたの！」	「気を付けていたのに忘れたんだね。今度は持ってきてね。」
6	「だらしないよ。行儀よく食べなさい。」	「おなかとテーブルをくっつけると、こぼれないね。」
7	「足をバタバタするのを止めなさい！ 行儀悪い！」	「床と足の裏を仲良しにしましょう。」
8	「〇〇君、列から、はずれてるよ！」	「〇〇君、前の友達の前を見てね。」
9	「いいかげんに、話をちゃんと聞きなさい。」	「一度しか言わないからよく聞いてね。」
10	「叩いたら駄目って言ったでしょ。何でそういうことするの！」	「言葉で伝えてあげようね。」

小学校

- 学級づくり
- 授業づくり
- 個別の指導計画を生かした支援
- 好意に満ちた教師の言葉がけ

小学校～学級づくり

机の中の視覚的な支援の工夫（第1学年）

【実態】

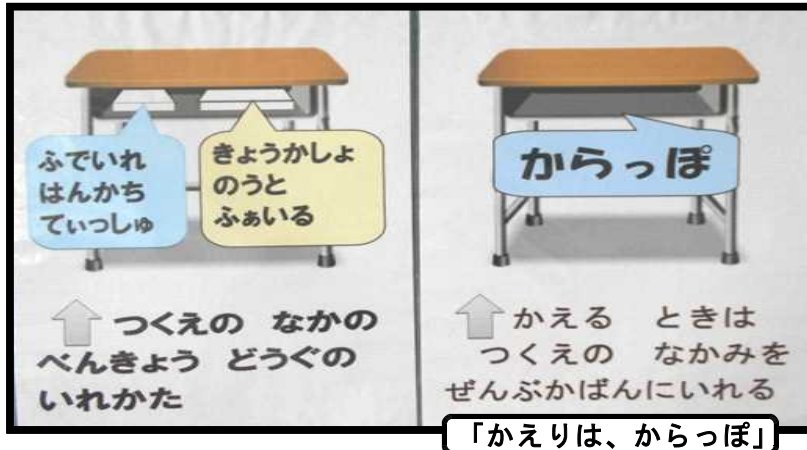
- 机の中の整理整頓がきちんとできない子どもがいました。

【背景】

- 耳で聞いても理解することが難しいことが考えられました。

【指導や支援の工夫】

- 机の中を整理する習慣を付けるため、図を掲示しました。



【その時点の状況】

- 図を見て机の中の整理整頓に心がけるようになりました。また、「かえりは、からっぽ」が合い言葉になり、できるようになりました。

思いやりのある学級づくりの工夫（第2学年）

【実態】

- 相手のことを考えない言動をする子どもや、進んで学習に取り組めない子どもがいました。

【背景】

- 学級全体に、思いやりの心や学習意欲を高めたいと考えました。

【指導や支援の工夫】

- 学級全体でがんばりを見せた時、思いやりのある行動ができた子どもがいた時、「みんなのたからばこ」にシールを貼っていきます。全部埋まったら、お楽しみ会をします。



【その時点の状況】

- 集中して学習に取り組んだり、思いやりのある行動をしようとする子どもが多くみられるようになってきました。

小学校～学級づくり

友達の長所を見付ける工夫（第2学年）

【実態】

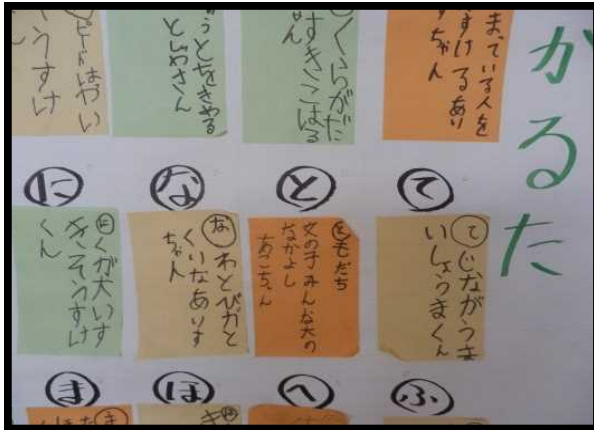
○ 友達の長所を見付けることが難しい面がみられました。

【背景】

○ 自分から友達の長所に気付く機会がほとんどありませんでした。

【指導や支援の工夫】

○ 「いろはカルタ」に、「なわとび得意な□□さん」など、友達の得意なことやがんばっていることを全員で考え、書いて掲示しました。



【その時点の状況】

○ 「いろはカルタ」なので、楽しみながら友達の長所を認める機会となり、互いに認め合う雰囲気が高まりました。

友達の長所を見付ける工夫（第4学年）

【実態】

○ 友達の長所を見付けることが難しい面がみられました。

【背景】

○ 自分から友達の長所に気付く機会がほとんどありませんでした。

【指導や支援の工夫】

○ 日直の子どもの長所やがんばったことを書いて、帰りの会で発表する機会を設定し、掲示しました。



【その時点の状況】

○ 長所やがんばっていることを認められる喜びを感じ、自分から友達の長所を認めようとする雰囲気が出てきました。

小学校～学級づくり

温かい言葉を考えさせる工夫（第4学年）

【実態】

○ ちくっと言葉を言ってしまい、友達を傷付けてしまう傾向がみられました。

【背景】

○ 自分が言った言葉で相手がどんな気持ちになるかを想像することが苦手なようでした。

【指導や支援の工夫】

○「ちくつと言葉」をなくし、「ふわつと言葉」を増やす取組として、言葉を考え、掲示していきました。



【その時点の状況】

○ 掲示しておくことで、「ちくっと言葉」に気を付けて、「ふわっと言葉」を使うようになってきました。

学級の約束の提示（第5学年）

【実態】

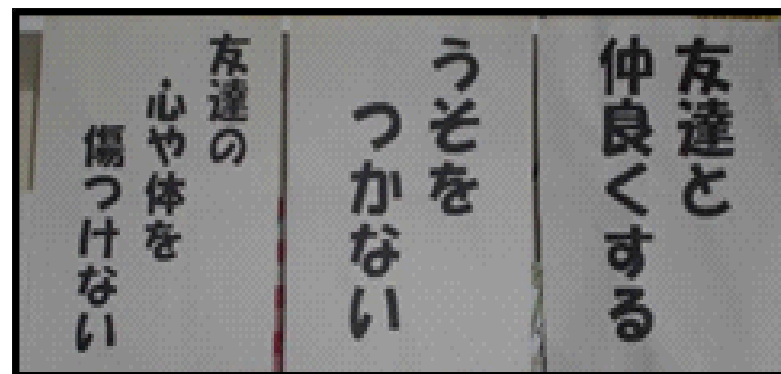
○ 1年間、クラスで取り組む約束がありませんでした。

【背景】

○ 聞くだけでは、約束を意識することは難しいようでした。

【指導や支援の工夫】

- 4月初に、3つの約束を1つずつ提示し、全員で読んで確認しました。
- その後、教室前方に1年間掲示しました。



【その時点の状況】

○ トラブルが発生した時など、子ども同士で、必ず、3つの約束を確かめて、仲良くなるようになってきました。

小学校～学級づくり

聞くことへの集中を促す工夫（第4学年）

【実態】

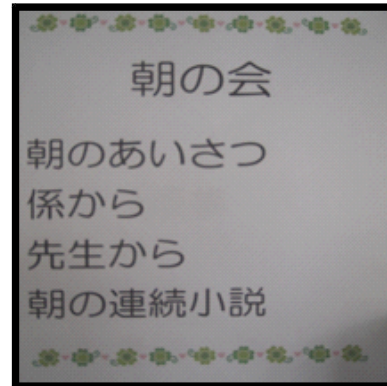
- 教室が騒がしく、全体指導が伝わりませんでした。

【背景】

- 聞くことより自分の話が優先になってしまう傾向がみられました。

【指導や支援の工夫】

- 大声を出すよりも、キャラクターを出して静かになるのを待ちました。また、朝の会では、「朝の連続小説」と称して、読み聞かせを必ず行いました。



【その時点の状況】

- 全員が聞くことに集中する心地よい時間を体感することで、聞くことを意識し、静かにできるようになりました。

掃除用具の視覚的な支援の工夫（第5学年）

【実態】

- 掃除用具を整理して収めるのが難しかったです。

【背景】

- 収め方が分からない子どもが多かったです。

【指導や支援の工夫】

- 掃除用具の収め方の写真を撮り、掃除用具入れのロッカーの近くに掲示しました。



【その時点の状況】

- いつも整理整頓できるようになりました。

小学校～授業づくり

内科健診の視覚的な支援の工夫（保健室）

【実態】

- 内科健診など、いつもと違うことがあるとパニックになってしまう子どもがみられました。

【背景】

- 見通しがないと不安になることが考えられました。

【指導や支援の工夫】

- 内科健診の前に、手順をパソコンのスライドショーで見て、確かめました。

①
ほけんしつでは、声を出さないでね。

②
やじるしどおりにすすもう。

③
赤は「止まれ」、前の人がすすんでからね。

④
おいしゃさんの前に行ったら、

⑤
「なまえ」をはっきり言う。

⑥
おわったら「ありがとうございました」。

⑦
そっと、ほけんしつを出しましょう。

【その時点の状況】

- 見通しがもてたので、スムーズに健診を受けることができました。

意欲を引き出す挙手の工夫（第2学年）

【実態】

- 挙手して発言しようとする子どもが少ない状況でした。

【背景】

- 考えはあっても、自信がもてない面がありました。

【指導や支援の工夫】

- 自信があれば「パー」、少し自信がない時は「チョキ」で手を挙げるようにしました。教師は、発言しようとしたことをほめることにしました。



【その時点の状況】

- 意欲的に学習に取り組む子どもが増えてきました。

小学校～授業づくり

字の書き方の視覚的な支援の工夫（第1学年）

【実態】

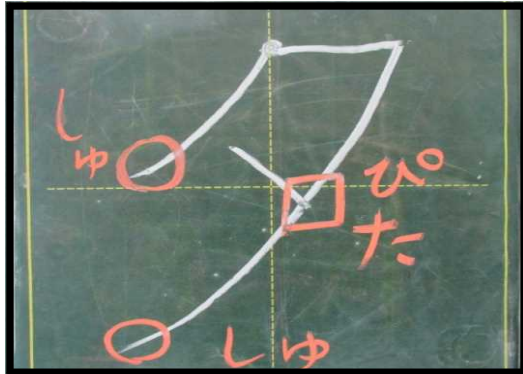
- 字形を整えて書くことが難しい子どもがいました。

【背景】

- 細部に注目したり、「はらい」などをイメージしたりしながら書くことが苦手であることが考えられました。

【指導や支援の工夫】

- 鉛筆の動かし方のイメージを言葉にして、視覚と聴覚の両方から理解できるよう、筆の動きを「ぴた」「しゅ」などの音で表現し、支援しました。



【その時点の状況】

- 声に出しながら書くことで、「とめ」や「はらい」などに気を付けて書くことができるようになってきました。

課題を終えた後の指示の工夫（第3学年）

【実態】

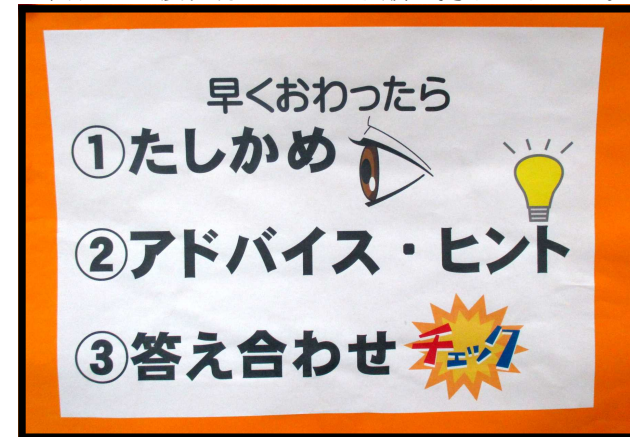
- 課題を終えた後に、騒いでしまう子どもがいました。

【背景】

- 課題を終えた後に行うことが、子どもに伝わっていなかったことが考えられました。

【指導や支援の工夫】

- 課題が終わった後、行うことの手順を掲示しました。



【その時点の状況】

- 掲示を確認し、自分で取り組む子どもが多くなってきました。

小学校～授業づくり

静寂の時間の導入（第4学年）

【実態】

- 授業の導入時に集中できない面がありました。

【背景】

- 休み時間のことなどが、気になっていることが考えられました。

【指導や支援の工夫】

- 授業の最初の短い時間に、「読み聞かせ」を行い、静寂の時間を導入し、心を落ち着かせるようにしました。



【その時点の状況】

- 教師が読み聞かせることにより、子どもは落ち着き、スムーズに授業に集中できるようになってきました。

教材・教具の工夫（第5学年）

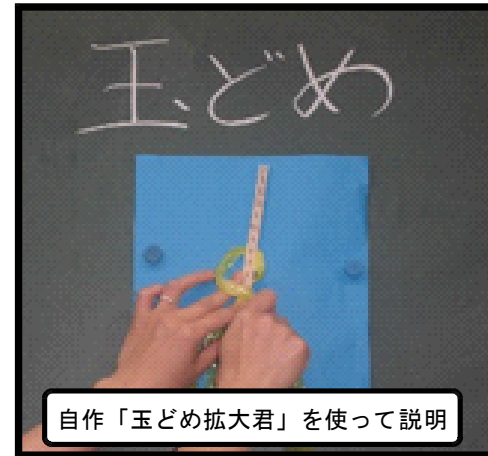
【実態】

- 5年生で初めて裁縫をするので、教科書の写真や説明だけでは、理解できない傾向がみられました。

【背景】

- 「難しそう」という気持ちが先に立ち、やる前から苦手意識が高まっていました。

【指導や支援の工夫】



- ① 教科書で「玉どめ」の手順を確かめます。
- ② 教師が右の写真の「玉どめ拡大君」（自作教具）で、やってみせます。
- ③ 子ども一人一人が、そのやり方を踏まえて机上で「玉どめ」に挑戦します。

自作「玉どめ拡大君」を使って説明

【その時点の状況】

- 「玉どめ」が分かり、意欲的に取り組むことができました。

小学校～授業づくり

授業中の発言のルール工夫（第6学年）

【実態】

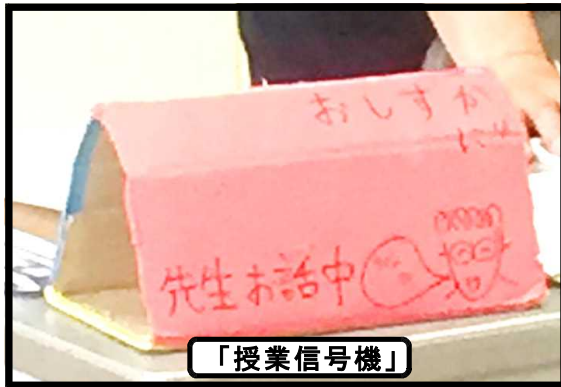
- 授業中に、いつでも自由に話をしてしまう子どもがいました。

【背景】

- 前学年で、「話す場面」「聞く場面」の区別のない授業を経験してきたことが影響しているようでした。

【指導や支援の工夫】

- 「静かに聞きます、先生お話中」を赤、「手を挙げて発言」を黄、「自由に話してよい」を青など、「授業信号機」を教卓に表示しました。



【その時点の状況】

- 授業に関係ない発言や不規則な発言がなくなりました。

指示の明確化の工夫（第3学年）

【実態】

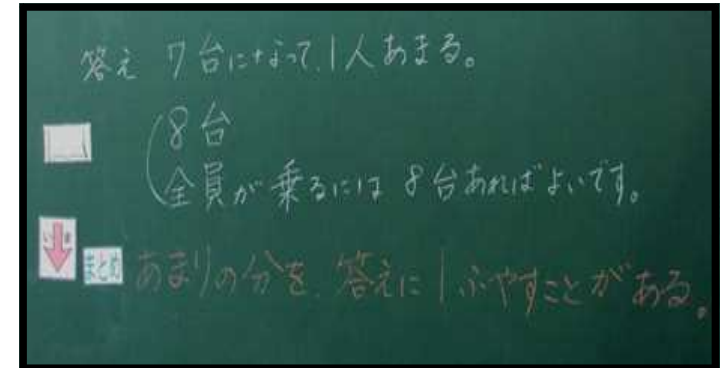
- 今、何をやる時間が、分からなくなってしまうことがありました。

【背景】

- 今、何をやる時間かの指示が明確でない時がありました。

【指導や支援の工夫】

- 板書に、「いま」を示すマークを掲示し、今は「まとめを書く時間」「教師の説明を聞く時間」など、分かるようにしました。



【その時点の状況】

- 今、何をやる時間かが分かることで、集中して学習できるようになりました。

小学校～授業づくり

机上の統一の工夫（全校）

【実態】

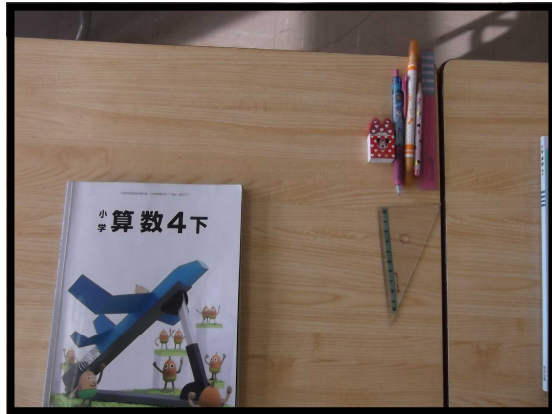
○ 机上に置く物が多く、学習に集中できない子どもがいました。

【背景】

○ これまで、机上の整理についてのきまりがありませんでした。

【指導や支援の工夫】

○ 鉛筆又はシャープペンシル3本と消しゴム1個、定規、教科書など、机上の整理を全校的に統一しました。



【その時点の状況】

○ 机上が整理され、学習に集中できるようになりました。

スケジュールの提示（第2学年）

【実態】

○ 見通しがもてず、不安になる子どもがいました。

【背景】

○ 1日のスケジュールなどを示していませんでした。

【指導や支援の工夫】

○ 1日の時間割だけでなく、その時間の主なスケジュールを示すようにしました。



【その時点の状況】

○ スケジュールを見ながら、落ち着いて学習するようになりました。

小学校～授業づくり

ICTの活用（第6学年）

【実態】

- 学習意欲が高く、全員が集中して学習に取り組んでいました。

【背景】

- 教師の指導の工夫が、子どもに伝わっていたので、さらに学習を深めることが考えられました。

【指導や支援の工夫】

- タブレット端末に入力すると、大型モニタに映るICTを活用し、社会科において、ペリーが日本に来るまでの航路を考え、子ども一人一人の考えを学級全体で協議し、さらに学習を深めました。



【その時点の状況】

- 子どもたちの考えが深まり、さらに集中して取り組みました。

板書の工夫（第1学年）

【実態】

- 授業で学んだことが身に付いていないことがみられました。

【背景】

- 授業の「課題」と「まとめ」が正対していないことがありました。

【指導や支援の工夫】

- 板書に「課題」（例「大きい数を数字でよんだり、かいたりしよう」）に正対した「まとめ」（例「10のまとまりは十のくらいに、ばらは一のくらいにかきます」）を必ず板書することにしました。



【その時点の状況】

- 「課題」と「まとめ」を意識して学習するようになりました。

小学校～授業づくり

学習が遅れがちな子どもへの配慮（全校）

【実態】

- 漢字や計算が遅れがちな子どもがいましたが、放課後や休み時間等に個別指導を行うと、自尊感情が低下する傾向がみられました。

【背景】

- これまで、学習が遅れがちな子どもへの配慮について、全校的に共通理解を図っていませんでした。

【指導や支援の工夫】

- ・ 今、どこを学習しているかを確かめるよう促す。
「教科書△△ページを開きなさい。」
「四角4番を指でおさえてごらん。」と指示する。
- ・ 学習活動の終わりが分かるように指示する。
「一人で5分間考えます。」
- ・ 時には、全員にハードルを下げた問題を提示する。
「全員、□年生の学習に戻って、練習します。」
- ・ スモールステップで取組を促す。
「ここまでできたね。次は、これをやってみよう。」

【その時点の状況】

- 学習が遅れがちな子どもも、意欲的に取り組むようになってきました。

全校朝会での視覚的な支援の工夫（全校）

【実態】

- 全校集会の話を理解していない児童がいました。

【背景】

- 耳からの情報だけでは、記憶することが苦手であることが考えられました。

【指導や支援の工夫】

- 全校集会の校長講話で、伝えたいことを視覚的に支援しました。



【その時点の状況】

- 話し手に注目して聞いている子どもが増え、話の内容も理解できるようになってきました。

小学校～授業づくり

時間を示す工夫（全校）

【実態】

- 時間までに行う学習活動が苦手な子どもがいました。

【背景】

- 途中の時間を示していないことにより、時間を意識できなくなっていることが考えられました。

【指導や支援の工夫】

- タイマーだと音の刺激が強いため、スクリーンにストップウォッチの動きそのものを映し出し、時間の経過が分かるようにしました。



【その時点の状況】

- 時間に気付き、時間を意識して取り組むようになりました。

認め励ます支援（第5学年）

【実態】

- 学習に自信がもてない子どもがいました。

【背景】

- その都度、取り組んでいることが、これでよいかどうか不安になる傾向がみられました。

【指導や支援の工夫】

- 一人一人をその都度、笑顔で認め、励ますようにしました。



認め励ます際、次のようなことに気を付けています。

- ・短くほめる
- ・すぐにほめる
- ・笑顔で声をかける
- ・合図で承認する
- ・子どもの声に耳を傾ける

【その時点の状況】

- 自信をもって学習できるようになってきました。。

小学校～授業づくり

教師の表情の工夫（第1学年）

【実態】

- 教師の表情を見て、不安になる傾向がみられました。

【背景】

- 教師は子どもにとっての最大の教育環境であり、教師の言動の影響力が大きいことがあります。

【指導や支援の工夫】

- 子どもの目の高さになり、できるだけ、温かな笑顔で接しました。



温かな笑顔で接する

【その時点の状況】

- 子どもも落ち着き、教室に笑顔があふれました。

教師の指導の工夫（第4学年）

【実態】

- 授業になかなか集中できない子どもがいました。

【背景】

- 一本調子の授業だと落ち着かず、取り組みなくなる場合があります。

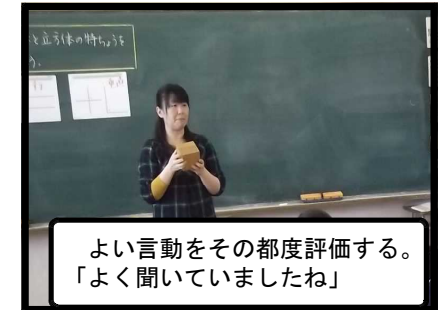
【指導や支援の工夫】

- 教師が前でやってみせたり、全員が集中するまで待ってから説明する、よい言動をその都度、評価することを大切にしました。

やってみせる



全員が集中するまで待つ



【その時点の状況】

- どの子どもも授業に集中できるようになりました。

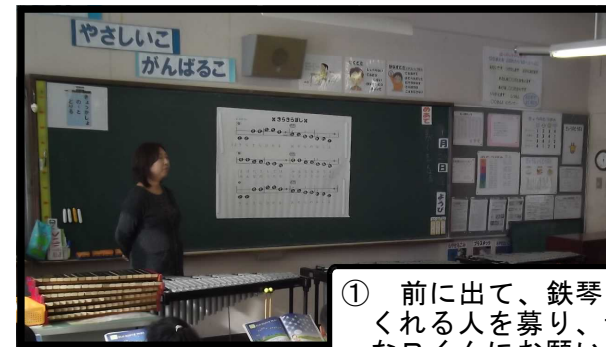
小学校～個別の指導計画を生かした支援

個別の指導計画(第1学年・Bくん)

子どものよさ (○) 学習や生活上、困難なこと (△)		長期目標 (1年後)	
○ 好きなことは、こだわりをもって取り組む。 ○ 音楽の楽器には興味があり、演奏は好んで取り組む。 △ 全体への指示に気付かない。 △ 好き嫌いが多い。 △ おもしろくないことがあると、教室を飛び出してしまうことがある。		・ 教師の指示にすぐ気付き、取り組めるようになる。 ・ 見通しをもって進んで学習できる。	
短期目標 (1～3か月後)	場 面	指導や支援の 内容、方法	評 価
・ 1時間に1回は、全体の指示に気付くことができる。	授業中	・ 指示に気付くよう、声かけしたり、全体への指示の内容を個別に伝える。	・ 1日1回は、教師の全体への指示に気付くようになってきた。
・ 1時間に1回は、集中して学習に取り組むことができる。	授業中	・ 授業のスケジュールを知らせたり、解き方のヒントなどを助言する。	・ 見通しをもつことで、少しずつ集中できるようになってきた。

よさを生かした支援

【指導や支援の工夫】



① 前に出て、鉄琴を演奏してくれる人を募り、音楽が好きなBくんをお願いしました。



② 前に出て、鉄琴を演奏し、全員をリードしてくれたBくんのよさを全体の前でほめました。友達からも称賛の声があがりました。

【その時点の状況】

○ 教師や友達に認められたことで、安心感をもち、安定して学習できていました。

小学校～好ましくない言葉がけを好意に満ちた言葉がけに変える例

	好ましくない教師の言葉がけ	好意に満ちた教師の言葉がけ
1	「はやく、最後までがんばりなさい」	「ここまでよくがんばったね。もう少しでゴールだよ。」
2	「低学年のお世話、まあまあ、がんばったね！」	「お世話、上手にできたね！△△さんも〇〇さんのこと、やさしいお姉ちゃんって言ってたよ。」
3	「なさけないよ。もう高学年なんだからね。」	「周りのお手本になってくれるとうれしいな。」
4	「姿勢が悪いぞ。」	「〇〇君、よい姿勢だね。だから読みやすい字が書けるんだね。」 「正しい姿勢を覚えていますか？みんなで確認してみよう。」
5	「前も同じことしてたよね。」	「〇〇まではできているね。次は□□をがんばろう。」
6	「何回言ったら分かるの？」	「やることを忘れてしまった子がいたら、教えてあげてね。」 「どうやったらできるようになるか、一緒に考えよう。」
7	「うるさい！」	「聞くことに集中しようね。」 「〇〇君の聞き方がとってもすてきだね。」
8	「何でそんなことするの！」	「理由があったんだね。先生、聞くよ。君のこと知りたいな。」
9	「その小さな声だと、聞こえないよ。」	「とってもいい考えだね。みんな聞きたい考えなので、伝えてあげてね。」
10	「話を聞いてないから、分からないんですよ。」	「周りの友達を見てみようか。」 「聞き上手の〇〇さん、もう一回言ってくれるかな。」

中学校

- 学級づくり
- 授業づくり
- 個別の指導計画を生かした支援
- 好意に満ちた教師の言葉がけ

中学校～学級づくり

教室環境の工夫（第1学年）

【実態】

- 雑巾の使う場所や、かける場所が乱れることが予想されました。

【背景】

- 雑巾の使い方が十分身に付いていない傾向がありました。

【指導や支援の工夫】

- 雑巾を使う場所を色分けし、言葉も表示しました。また、かける場所も固定しました。



【その時点の状況】

- 雑巾が、いつも整理整頓されるようになりました。

教室環境の工夫（第2学年）

【実態】

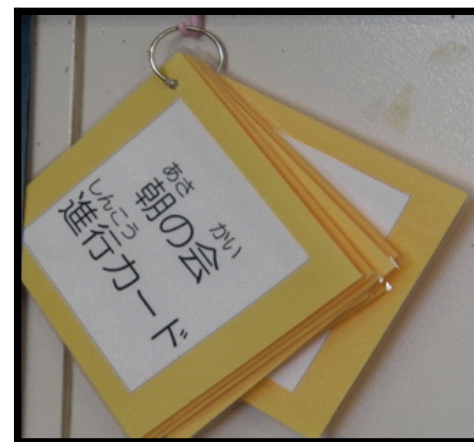
- 朝の会で、日直がスムーズに進行できない生徒がいました。

【背景】

- 途中で内容を忘れてしまい、どうしていいかわからず傾向がありました。

【指導や支援の工夫】

- 「朝の会」の進行ができるよう、進行カードを教室内にぶら下げておくことにしました。



【その時点の状況】

- 日直の時、自信をもって朝の会の進行できるようになりました。

中学校～学級づくり

教室環境の工夫（第3学年）

【実態】

- 基礎となる内容を定着することが難しい生徒がいました。

【背景】

- すぐに飽きたり、集中力が続かない傾向がありました。

【指導や支援の工夫】

- 教室の中の、日常的に目に触れる場所に、英単語カードをぶら下げておくことにしました。英単語カード以外のカードも下げました。



【その時点の状況】

- 休み時間など、友達同士で取り組むようになりました。

教室環境の工夫（第3学年）

【実態】

- 身の回りの整理整頓が苦手な生徒がいました。

【背景】

- 柔軟に対応することが苦手な傾向がありました。

【指導や支援の工夫】

- 教室や廊下で使用するハンガーやフック、棚などに出席番号を貼り、生徒一人一人が使用する場所を決め、柔軟に対応することを最小限にしました。



【その時点の状況】

- 使用する場所や物を決めたことで、安心して学校生活を送れることにつながりました。

中学校～授業づくり

音読の指示の工夫（第1学年）

【実態】

- 音読の時に、どこを読むのか、分からない生徒がいました。

【背景】

- 授業中の指示や説明を聞き流してしまう傾向がありました。

【指導や支援の工夫】

- 音読の指示を出す時は、読み始めのページを板書するようにしました。



【その時点の状況】

- どこから読むのかを聞いてくる生徒はいなくなりました。

避難訓練の工夫（第2学年）

【実態】

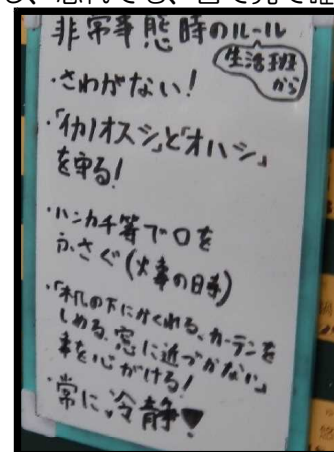
- ルール等を言葉で伝えても失敗する生徒がいました。

【背景】

- 言葉を意識し続けるのが難しい傾向がありました。

【指導や支援の工夫】

- 避難訓練の前に、ホワイトボードに大切なルールやマナーを書いて掲示し、忘れても、目で見えて確認できるようにしました。



【その時点の状況】

- ホワイトボードに書かれている内容を覚えようとし、ルールやマナーを守れるようになってきました。

中学校～授業づくり

歴史の学習の工夫（第1学年）

【実態】

- 歴史に関する学習事項について、相互の関連を理解することが苦手な生徒がいました。

【背景】

- 歴史に関する学習事項を関連付けて示していませんでした。

【指導や支援の工夫】

- 時代ごとに学習事項を整理し、生徒に示すようにしました。

時代	政治	外交	文化
飛鳥時代	聖徳太子の政治 推古天皇を中心とする天皇集権国家を目指す (太子は摂政)	遣隋使 中国の進んだ文化を日本へ	飛鳥文化 中国の影響を受けた 仏教文化

【その時点の状況】

- 事柄を整理して示すことで、歴史上の出来事が影響し合っているという関連性を理解できるようになりました。

歴史の学習の工夫（第1学年）

【実態】

- 歴史の流れがつかめず、用語の理解が難しい生徒がいました。

【背景】

- 覚えることを整理して示していませんでした。

【指導や支援の工夫】

- 時代のまとまりごとに、5W1Hを使い、歴史の出来事を流れて示すことにしました。

(例)

- ・いつ 1600年
- ・どこで 関ヶ原（岐阜県）
- ・だれが 徳川家康（東軍）と石田三成（西軍）
- ・何を 関ヶ原の戦い
- ・なぜ 秀吉亡き後の天下支配する主導権争い
- ・結果 東軍が勝ち、家康の天下支配が進んだ

【その時点の状況】

- 歴史的分野の学習の用語が定着するようになってきました。

中学校～授業づくり

授業中の指示の工夫（全校）

【実態】

- 教師の指示を聞き逃すことが多い生徒がいました。

【背景】

- 教師の指示が徹底していない面がありました。

【指導や支援の工夫】

- 指示の言葉を吟味し、指示したあとに確認するようにしました。

教科書△△ページを開きます。

問1を指でおさえてみましょう。

指でおさえたところを隣同士で
確かめましょう。



【その時点の状況】

- 指示の言葉を吟味し、指示したあとに確認することで、教師の指示を聞き逃すことが少なくなりました。

授業全体の配慮の工夫（全校）

【実態】

- 授業に集中できない生徒がいました。

【背景】

- 教師の配慮が十分でないことがありました。

【指導や支援の工夫】

- 「校内研修プログラム」の「授業づくり」の研修シート試案をもとに、授業中の教師の配慮を確認し、どの教科でも取り組むこととしました。

全校で確認した授業中の配慮

- 授業のスケジュールを必ず板書し、終わったことから消していく。
- 「教師の話聞く」「板書をノートに写す」等、一度に2つのことを指示しない。
- 「課題」と「まとめ」はしっかり板書し、四角で囲む。
- 指示する時は、「○分を行います」「○回練習します」と終わりを伝える。
- 時間の目安は、タイマーだと、その音で集中できなくなる生徒もいるので、カードで「あと何分」と示す。

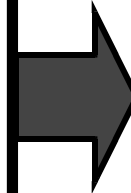
【その時点の状況】

- どの教科の授業でも統一して取り組んだことで、生徒が集中して取り組むようになってきました。

中学校～個別の指導計画を生かした支援

個別の指導計画（Cさん）

生徒のよさ（○） 学習や生活上、困難なこと（△）		長期目標 （１年後）	
○ 身体的には健康で、性格も明るく活発である。 ○ 数学と体育は好きである。 △ じっとしてられない。 △ 好きなことには取り組むが、作業が必要なことは最初から取り組まない。 △ 教師に対する好き嫌いがはっきりしており、苦手だと思う教師には反抗的になることがある。		・落ち着いて学習に取り組むことができる。 ・苦手だと思う教師に反抗的にならないようにする。	
短期目標 （１～３か月後）	場 面	指導や支援の 内容や方法	評 価
・数学と体育を中心に、５０分授業のうち、３０分集中して取り組める。	・授業中	・数学や体育は、模範解答や模範演技として紹介するなど、出番をつくる。 ・学級全体に対し、課題をスモールステップに分けて示し、できた時は認める。	・まだ課題はあるが、数学では、２０分程度、集中して取り組めるようになってきている。
・苦手だと思う教師に対し、１日１回話す前に気持ちを落ち着かせてから話すようにする。	・学校生活全般	・言動の仕方の手本を見せる。 ・学級全体に対し、腹が立った時は、すぐ話すのではなく、３つ数えてから話すよう促す。	・まだ課題はあるが、その頻度は減少していて、本人によると、反抗的になるのは１週間に１回までにとどめている。



よさを生かした支援

【指導や支援の工夫】

- 保健体育のマット運動では、模範演技の場面を設定したところ、見事な演技をしたことから、全員の手本となった。
- 数学では、計算問題を早く正確に解けることから、前に出て計算の仕方を説明する場面を設定したところ、分かりやすい説明であったことから、計算の仕方が分からなかった生徒の理解が進んだ。

【その時点の状況】

- 学級全員に認められたことから、笑顔が多くなり、苦手なことにも取り組もうとする態度がみられるようになりました。
また、まわりの生徒から頼りにされる場面も、多くなりました。

中学校～好ましくない言葉がけを好意に満ちた言葉がけに変える例

	好ましくない教師の言葉がけ	好意に満ちた教師の言葉がけ
1	「はやく、こっちを見なさい！」	「こちらに目を向けてください。」
2	「提出期限をどうして守れないんだ！」	「どうしたら提出期限を守れるか、先生と一緒に考えましょう。」
3	「どうして何も言わないんだ！」	「どう思ったか、次の中から選んでごらん。」
4	「時間かかりすぎ！」	「丁寧に取り組んでいたんだね。」
5	「きちんと立ちなさい。」	「背筋を伸ばしてみましょう。きっと素敵だよ。」
6	「いつになったら、静かになるんだ！」	「音を立てないで、さあ、やってみましょう。」
7	「どうしてそうなったんだ！」	「落ち着いてから、ゆっくり話そう。」
8	「ここ、間違ってる！」	「ここまではできているね。あと、〇〇ができるといいね。」
9	「またA君か、何回言ったら分かるんだ！」	「いやなことがあったんだね。まず座って。話を聞きますよ。」
10	「A君、早く答えなさい！」	「今、頭に浮かんでいる言葉を聞いてから、先生は話すよ。」

高等学校

- ホームルーム活動
- 授業づくり
- 好意に満ちた教師の言葉かけ

高等学校～ホームルーム活動

掲示の仕方の工夫

【実態】

- 生徒が掲示物をしっかり確認しない面がみられました。

【背景】

- どこに何が貼ってあるかが分かりにくい掲示になっていました。

【指導や支援の工夫】

- 内容ごとに分類して掲示し、タイトルを付けて掲示するようにしました。



【その時点の状況】

- 生徒が掲示物の内容を確認するようになり、学級も落ち着き始めました。

視覚的な支援の工夫

【実態】

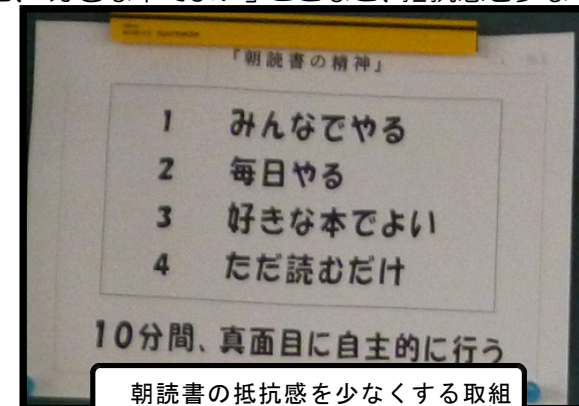
- 朝読書に取り組まない生徒がいました。

【背景】

- 朝読書の仕方が分からないことや、読書に対する抵抗感があることが考えられました。

【指導や支援の工夫】

- 「朝読書の精神」と称して、朝読書の仕方が分かるように示しました。また、「好きな本でよい」ことなど、抵抗感を少なくしました。



【その時点の状況】

- 生徒全員が朝読書に集中して取り組み、朝のSHRが落ち着くようになりました。

高等学校～授業づくり

ワークシートの工夫

【実態】

- 板書を書き写すのに時間がかかる生徒がいました。

【背景】

- 板書の量が多く、生徒の学習の理解も十分でない面がありました。

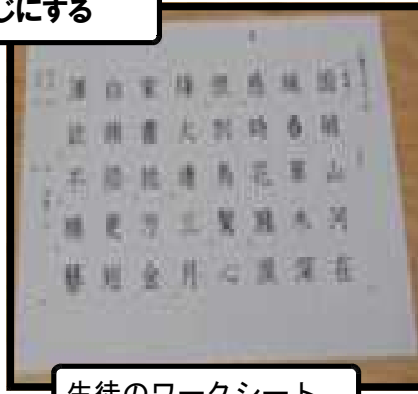
【指導や支援の工夫】

- 板書と同じワークシートを配付し、分かりやすくするとともに、生徒の板書を書き写す量を減らしました。

板書とワークシートの
内容を同じにする



教師の板書



生徒のワークシート

【その時点の状況】

- 集中して学習できるようになってきました。

問題解決の工夫

【実態】

- 数学における文章問題の意味を理解するのに時間がかかる生徒がいました。

【背景】

- 文章問題の内容を理解して、式を作ることができない傾向がありました。

【指導や支援の工夫】

- 長さについての問題において、実際に測って切った紙を活用した解決を促すことにより、生徒の理解を深めました。



ホワイトボード



生徒の活動の様子

【その時点の状況】

- 問題の意味を理解し、解答できるようになってきました。

高等学校～授業づくり

視覚的な支援の工夫

【実態】

- 動きのポイントにそった体の動かし方を把握できない生徒が多くみられました。

【背景】

- 動きを、実感を伴って理解することができていませんでした。

【指導や支援の工夫】

- バレーボールにおける生徒の動きをタブレット端末で撮影し、生徒が自分の動きを客観的に見て、理解できるようにしました。



自分の動きを録画し、映像を見て考える

【その時点の状況】

- 動きのポイントを視覚的に示したことにより、理解が深まり、進んで運動に取り組めるようになってきました。

個別面談による支援

【実態】

- 学習や人との関わりで困難さのある生徒がいました。

【背景】

- 一斉授業の中で取り組むのが難しい傾向がみられました。

【指導や支援の工夫】

- 特別支援教育コーディネーターが計画し、教科担任やHR担任などが昼休みや放課後の個別面談で、授業で分からなかった箇所を確かめるとともに、その場でできることとして、

- 教科書やノートの前のページを確かめる
- 教科書の巻末資料を活用する
- 先生に聞く
- 辞書を引く

など、具体的な行動を当該の生徒とともに考えました。

【その時点の状況】

- 日常の授業において困難を感じる場面が少なくなり、積極的に学習に取り組めるようになってきました。

高等学校～授業づくり

説明し合う学習の導入

【実態】

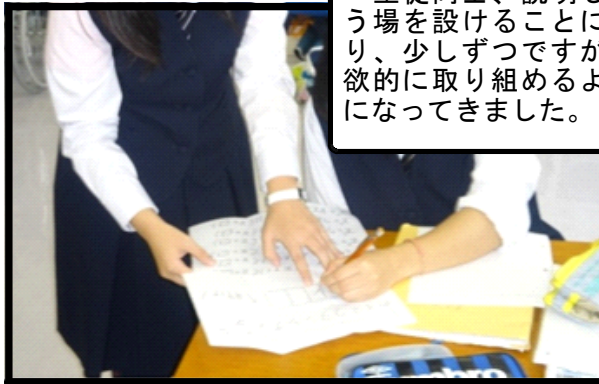
- 因数分解など、計算の領域で生徒間に学力の差がみられました。

【背景】

- 数学に対する苦手意識が強い生徒が多い傾向がありました。

【指導や支援の工夫】

- 数学で、解き方を生徒間で説明し合う場を設定しました。



生徒同士、説明し合う場を設けることにより、少しずつですが意欲的に取り組めるようになってきました。

【その時点の状況】

- 数学が苦手な生徒も少しずつ意欲的に取り組むようになりました。

興味・関心を高める学習の工夫

【実態】

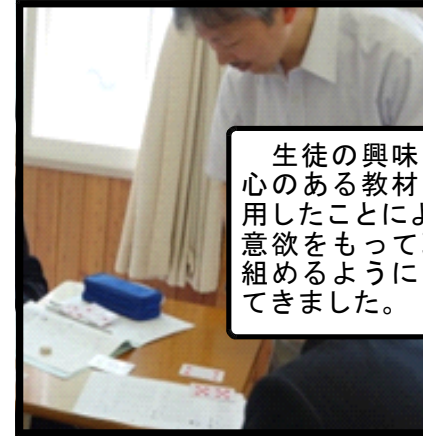
- 中学校の英語の学習が定着していない面がみられました。

【背景】

- 反復練習を行うだけでは、学習活動への意欲が続かない傾向がありました。

【指導や支援の工夫】

- 2枚のトランプを出してかけ算を行い、その答えを英語で声に出して答えるなど、興味・関心を高める学習活動を取り入れました。



生徒の興味・関心のある教材を活用したことにより、意欲をもって取り組めるようになってきました。

【その時点の状況】

- 中学校の学習にも意欲をもって取り組むようになってきました。

高等学校～授業づくり

授業中の指示の工夫（全校）

【実態】

- 生徒が教師の指示を聞き逃すことが面がありました。

【背景】

- 教師の指示が徹底していない傾向がみられました。

【指導や支援の工夫】

- 指示の出し方について、次のようなことを全校で共通理解を図りました。

1 回の指示の内容を絞り込む。

指示を板書する。

指示を書いたプリントを配る。

指示を聞く時、メモをとるよう促す。

【その時点の状況】

- 指示を出す時に配慮することで、教師の指示を聞き逃すことがなくなりました。

授業全体の配慮の工夫（全校）

【実態】

- 授業に集中できない生徒がいました。

【背景】

- 教師側の配慮が十分でない傾向がみられました。

【指導や支援の工夫】

- 「校内研修プログラム」の「授業づくり」の研修シート試案をもとに、授業中の教師の配慮を確認し、どの教科でも取り組むこととしました。

全校で確認した授業中の配慮

- 本時のねらいを明確に示す。
- 本時の流れを板書する。
- 学習内容がどのような場面で役立つかを伝える。
- ペアやグループの学習活動を取り入れる。
- 板書は消さずに、最後に、今日の学習を振り返る際に活用する。
- 授業の最後に「確認問題」などで、学んだことを確かめるようにする。

【その時点の状況】

- どの教科の授業でも統一して取り組んだことで、生徒が集中して取り組むようになってきました。

高等学校～好ましくない言葉がけを好意に満ちた言葉がけに変える例

	好ましくない教師の言葉がけ	好意に満ちた教師の言葉がけ
1	「こんなことも分からないで、よく中学校を卒業できましたね。」	「よし、中学校までの学習に戻って先生と一緒にやってみよう！」
2	「もう、やりたくないなら、帰っていいですよ。」	「まず何から取り組もうか。」
3	「何で、できないんだ！」	「どこから分からなくなっているのか、先生と一緒に考えよう！」
4	「あなたに頼んだ私が、バカでした。」	「大丈夫！次は期待してるよ！」
5	「どうせ、やる気ないんでしょう。」	「何か嫌なことがあったんだね。気持ちのきりかえができるまで待ちますよ」
6	「話、聞いてなかったのですか。」	「大事なことになるので、もう1回言います。しっかり聞いてください。」
7	「～なんですよね。」 (決め付ける言い方)	「先生は〇〇と思うんだけど、どう思う？」
8	「何度も同じこと、言わせるな！」	「大事なことをもう一度言います。しっかり聞いてくださいね。」
9	「やっぱり、君はだめか。」	「前に確認したことを思い出してみましょう。」
10	「どういうつもりだ！」	「どうしたらよいか、一緒に考えましょう。」

その他

個別の教育支援計画を活用した引継ぎの例

幼稚園から小学校へ引き継ぐ

幼稚園名	〇〇	名前	△△ △△	在園期間	□年
好きな事	ドッジボール、鬼ごっこ				
よさ	穏やかで、ゆったりと構えている。真面目である。				
日常生活	・立ち歩かないで食べることができる。 ・トイレを一人ですることができる。 ・はしを使って食べることができる。				
遊び	・友達と遊ぶことができる。 ・遊具等、順番を守って遊ぶことができる。 ・友達を遊びに誘うことができる。				
運動	・走ったり跳んだりすることができる。 ・ボールを投げたり受けたりすることができる。 ・一定時間、歩くことができる。				
言葉	・場に応じた大ききで話すことができる。 ・発音がやや不明瞭で、詰まる時がある。				
かかわり	・挨拶や返事などができる。 ・困ったとき、教師や周囲の大人に伝えることはできる。				
学習	・一定時間、座って課題に取り組むことができる。 ・紙の大きさに合わせて絵などをかくことができる。				
有効だった手立て	・できたところを認め励ますと、次への意欲につながった。 ・一緒にする、アドバイスするとがんばれた。 ・話しかけてきた時は、しっかりと受け止めると、話す気持ちが高まった。 ・遊びの楽しさを経験させると、自分から友達を誘い出すようになった。				

☆ 保護者の同意のもと、有効だった手立てなど、必要な事を小学校に引き継ぎました。

中学校から高等学校へ引き継ぐ

支援メモ

平成		年	月	日	年	組	氏 名	
場所							記入者	
子どもの様子					○有効だった手立て ●よくなかった手立て			
注意された内容を本人は理解していないように思われる。					● 否定的なアドバイスだと聞かない。 ○ 何をどう改善するとよいかを、具体的に伝えると耳を傾け、実行する。			

支援メモ

平成		年	月	日	年	組	氏 名	
場所							記入者	
子どもの様子					○有効だった手立て ●よくなかった手立て			
授業中に無意識に、不満の時、顔にあらわれる。					● 担任が「まわりがどう思っているかを考えなさい」と言うと、しばらくは直そうとするが、また元に戻る。 ○ 本人のよいところを伝え、「そのよい点を生かすために 直そう」と伝えると、表情が明るくなり、がんばれた。			

☆ 保護者の同意のもと、場面における子どもの様子と手立てをメモした「支援メモ」を中学校から高等学校に引き継ぐことにより、有効だった支援が高等学校でも行われました。

保護者への説明

入学当初の保護者への説明（幼稚園）

幼稚園には、大勢の友達がいます。
しかも、それぞれが違った個性をもっていて、いろいろな人と出会うことができます。
そして、お互いに分かり合うまでは時間と努力が必要です。（中略）

人間は自分一人の力で生きるのではなく、互いに思い合い、助け合いながら育っていく関係をつくりだしてこそ幸せであると思います。その大切さを身をもって知っていくのです。見守っていきましょう。育ちあっていくことを信じて。不安なことがありましたら、ぜひ経験豊富な教職員を頼りにして下さい。一緒に悩みを分かち合ってくれると思います。

子どもには、よさやできることがたくさんありますが、「言語発達が遅い」「基本的生活習慣が定着していない」「会話がかみあわない」「落ち着きがない」など、どの子どもにも支援が必要なことがあります。

こうしたことから、本園では、校内委員会を設置して、特別支援教育コーディネーターを中心に、教職員全員で必要な指導や支援を行っていますので、御安心ください。

本園では、例えば、「遊びの中で実体験を充実させる」「そばについて、繰り返し丁寧に指導する」などの必要な支援を行っていきたいと考えています。全ての子どものよさや可能性を伸ばしていけるよう、一人一人に応じた指導や支援を行っていきますので、一部の子どもへの差別やえこひいきをするものではありません。

「互いのよさや違いを認め合える人間関係づくり」に取り組むことは、一部の子どもだけでなく、すべての子どもに対する指導の充実を図っていけるものと考えておりますので、こうした取組について、御理解と御支援を賜りますよう、お願いいたします。

また、お子さんの支援について、いつでも御相談ください。

☆ 入学当初に、保護者に対し、特別支援教育について分かりやすく説明しています。

「実践BOX」の取組

実践BOXの取組

「実践BOX」とは

授業や学級経営におけるユニバーサルデザインの実践をメモしてBOXに入れて、集まったら教員全員で見て、よい実践を共有するものです。



校内で
互いの実践
を共有

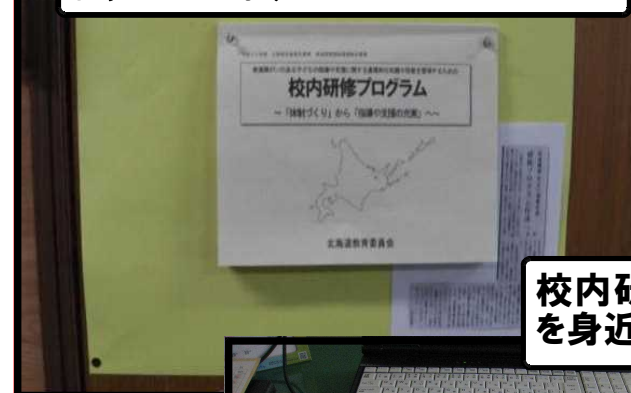
- 職員室の後方に設置。
- B5・1枚の半分程度の用紙に、実践をメモ書きして投函する。
- ある程度たまった時に、開いて、研修担当者が印刷して、教員全員に配付し、全員で共有している。

☆ 先生方が互いの実践を共有するきっかけとなりました！

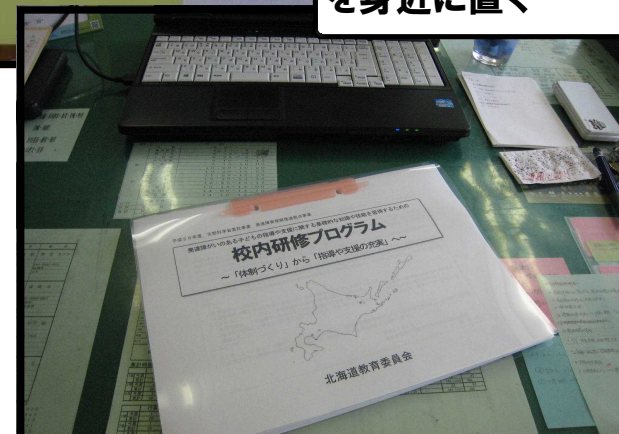
校内研修プログラムの活用

校内研修プログラムの周知

校長室に掲示し、管理職が、常に意識するようにしています！



校内研修プログラム
を身近に置く



道立特別支援教育センターからダウンロードして印刷し、どの先生もファイルで持っていて、いつでも見ることができるようにしています！

■ 平成26・27年度発達障がい支援モデル事業・モデル校等の皆様

◇森町立さわら小学校 (26年度)

校長 花田 譲
教頭 西口 昌司
教諭 橋本 明紀
大島 清貴
北村 浩一
菊地 政一
須藤 紫哉
中田 直奈
東口 良奈
伊井 良平
菅田 義治
澤山 あかり
西渡 宗彦
渡山 俊郎
山花 かつお
松浦 久美
廣瀬 幸太郎
山崎 誠子
福島 美知
長谷川 均

養護教諭
事務職員

(27年度転入)

校長 住坂 聡
教諭 坂秋 玲
後佐 博光

◇森町立さわら幼稚園 (26年度)

園長 下村 由貴子
主任 青山 まゆみ
教諭 田原 かすみ
山谷 ひかり
種田 恵里
成川 早紀
島田 信将
島田 信子

(27年度転入)

主任 大島 修
教諭 柴田 路子

◇森町立砂原中学校 (26年度)

校長 鳴海 康 司
教頭 古館 勉
教諭 佐々木 昌信
松田 秀之
藤田 本真理
橋本 宅仁
太田 春香
伊与田 篤子
会津 森剛子
藤庄 内子
吉田 藤沙
伊寺 岡賢
伊住 友亮
住友 幸枝
村上新 素明
中蔵 島子
中谷 貴和
平野 義雄

養護教諭
事務職員

(27年度転入)

校長 村上 篤
教諭 新中 素子
中平 野義雄

◇美唄市立中央小学校 (26年度)

校長 砂川 昌之
教頭 多谷 雪佳
教諭 渡部 由佳
工藤 香彦
中大 澤奈緒
須藤 野直
大和田 知佳
前内 克己
水谷 竹泰
菅村 康子
中澤 剛浩
前山 純一郎
西木 曾敏
小坂 本稔
大佐 津小
本々 木久
山本 川美
山中 島史
村千 上子
千田 華奈
大野 満
高橋 美
宗像 千
東田 道
神永 妙
吉永 奈
横内 春

養護教諭
養護教諭
事務職員

(27年度転入)

教頭 大高 成
教諭 宗東 歩
吉神 春生
横内 子美
奈春 奈

養護教諭

◇美唄市立栄幼稚園 (26・27年度)

園長 東海 早苗
教諭 橋本 久美子
佐藤 美由紀

◇美唄市立美唄中学校 (26年度)

校長 海野 泰 弘
教頭 斎藤 宏 史
教諭 岩瀬 貴憲
芳賀 征明
小笠原 津佳
堀川 光徳
吉田 裕一郎
石井 竜一
今竹 竜健
池田 有至
小沼 信己
中佐 宏子
佐澤 麻美
橋本 信
田中 雅
岩田 啓
稲竹 真
竹内 和
林伸 子
大島 信
片桐 青
宮本 真
光野 貴
洋

養護教諭
事務職員

(27年度転入)

教頭 林 伸
教諭 大島 信
片桐 青
宮本 真
光野 貴
洋

事務職員

◇湧別町立上湧別小学校 (26年度)

校長 藤新 昌 信
教頭 植本 研 二
教諭 横本 松 則
辻石 裕 子
奥横 岡 則
坂飯 山村 子
東佐々木 田 之
林三 澤 奈
吉高 村 介
小池 野 子
佐藤 池 一
渡東 藤 亮
二峰 辺 宏
牧明 日香

養護教諭
事務職員

(27年度転入)

校長 佐渡 隆
教諭 東二 峰

養護教諭

◇湧別町立湧別中学校 (26年度)

校長 竹村 博 英
教頭 木崎 みやぶ
教諭 尾崎 久
寺田 賢治
大平 純仁
久保 誠也
宮森 拓也
佐々木 卓養
段高 正孔
今井 藤一
山田 郁光
佐太 部光
江崎 樹
岡部 浩也
田中 克
山宮 下
三中 上
石井 元友
志克

養護教諭
事務職員

(27年度転入)

校長 田山 浩
教諭 宮三 克

事務職員

モデル校への支援校

- 森地区
北海道函館豊学校
- 美唄地区
北海道美唄養護学校
- 湧別地区
北海道紋別養護学校ひまわり学園分校

- 森町教育委員会
教育長 香田 隆
- 美唄市教育委員会
教育長 早瀬 公平
- 湧別町教育委員会
教育長 牧野 裕司

□ 平成２７年度発達障がい支援モデル事業・協力校及び協力地域、情報提供校

（１）協力校及び協力地域

- | | | | | |
|---------------------------|------------------------------|---------------------------|----------------------------|---------------------------|
| ○ 北広島市立北の台小学校
校長 田井 博昭 | ○ 共和町立はまなす幼児センター
所長 山内 理恵 | ○ 室蘭市立地球岬小学校
校長 橋本 誠司 | ○ 安平町立はやきたこども園
園長 根本 弘美 | ○ 安平町立追分幼稚園
園長 米村 昭則 |
| ○ 安平町立安平小学校
校長 三品 辰雄 | ○ 安平町立追分小学校
校長 松井 操人 | ○ 安平町立早来小学校
校長 中村 浩士 | ○ 安平町立遠浅小学校
校長 真鍋 忍 | ○ 安平町立追分中学校
校長 舛田 仲永 |
| ○ 安平町立早来中学校
校長 島 義幸 | ○ 北海道追分高等学校
校長 宮原 淑彰 | ○ 北海道静内農業高等学校
校長 二木 浩志 | ○ 北海道檜山北高等学校
校長 佐竹 卓 | ○ 占冠村立占冠中学校
校長 大角 勝之 |
| ○ 北海道留萌千望高等学校
校長 小松 信夫 | ○ 稚内市立稚内港小学校
校長 菅野 洋子 | ○ 北海道更別農業高等学校
校長 田村 弘樹 | ○ 釧路町立富原小学校
校長 吉田 亨 | ○ 別海町立別海中央小学校
校長 住吉 幹城 |

（２）情報提供校

- | | | |
|------------------------------|-------------------------------|----------------------------|
| ○ 湧別町立湖陵中学校
校長 信本 武彦 | ○ 北海道北広島西高等学校
校長 後藤 哲 | ○ 北海道札幌東商業高等学校
校長 逢見 稔嗣 |
| ○ 北海道遠軽高等学校（定時制）
校長 吉村 裕彦 | ○ 北海道士別東高等学校（定時制）
校長 田中 光彦 | ○ 北海道根室西高等学校
校長 元紺谷 尊広 |

□ 平成２７年度発達障がい支援モデル事業で御指導・御助言くださった方々

◎ 講師

プール学院大学教育学部教育学科准教授 松久 眞実

○ 発達障がい専門性向上ワーキンググループ

- | | | |
|-------------------|-----------------|-------------|
| ・北海道国公立幼稚園会長 | 札幌市立きくすいもとまち幼稚園 | 園長 加 藤 貴 子 |
| ・北海道特別支援学級設置学校長協会 | 札幌市立美しが丘緑小学校 | 校長 高 村 誠 |
| ・北海道特別支援学級設置学校長協会 | 札幌市立厚別中学校 | 校長 山 岸 徹 |
| ・特別支援学校長会会長 | 北海道星置養護学校 | 校長 五十嵐 利 裕 |
| ・外部専門家 | 札幌大学 | 教授 高 橋 裕 |
| ・親の会 | 北海道LD親の会連絡協議会 | 代表 長 田 じゅん子 |
| ・関係機関 | 北海道立特別支援教育センター | 所長 木 村 宣 孝 |

□ 平成２６・２７年度発達障がい支援モデル事業の北海道教育委員会関係者

- 各教育局特別支援教育スーパーバイザー
三浦 貴徳、宮岸 尚平、目黒 範和、坪川 寛司、三品 秀行、永長 明之、吉田 卓郎、丸山 敏儀、音羽 孝文、井田 昌之、駒津 和康
池田 英司、三坂 佳慎、若林 幹浩、大月さゆり
（平成２７年度異動ほか）
岩橋 亜矢、木谷 研介、吉岡 大介、菅原 巧、中西 章二、田中 君枝、荒木 英弥、青木 淳
- 北海道教育庁学校教育局特別支援教育課学校教育指導グループ
・特別支援教育担当局長 佐藤 和彦 ・特別支援教育課長 小原 直哉 ・主 幹 伊藤 友紀、神守 一志
・主 査 柏木 拓也、北嶋 公博、宇野宏之祐、佐藤 潤子、奥田 雅紀（２７年度転出）
・指導主事及び主任 仙北谷逸生、森田 浩司、山内 功、早坂 千絵、國崎 真希（２７年度転出）

**通常の学級における特別支援教育の視点を生かした
「実践事例集」**

～一人一人を大切にした学級づくりと、どの子にも分かりやすい授業の充実を目指して～

平成28年3月発行

編集・発行 北海道教育庁学校教育局特別支援教育課
札幌市中央区北3条西7丁目